

令和 7 年定例会　3 月特別議会
教育民生常任委員会調査報告書

令和 7 年 3 月 25 日

教育民生常任委員会

教育民生常任委員会 活動状況

〔報告期間〕 令和7年2月3日～令和7年3月24日

日時	活動区分	内 容	頁
2. 3 (月) 13:00～13:18	検 討	《委員のみ》 ■ 2月定期議会中における委員会並びに分科会日程について ■ 陳情書の取り扱いについて ■ 委員会調査報告書について 〔出席者〕 田口委員長ほか委員7名	—
2.12(水) 9:30～11:35	意見交換会	■ 諸物価高騰による給食費及び燃油等への支援について ■ 急激に進む少子化の保育施設に及ぼす影響とその対策について 〔出席者〕 田口委員長ほか委員7名 登米地方保育所協議会 11名	3
2.25(火) 15:20～16:05	所管事務調査①	《教育部》 ■ 登米市新図書館機能検討委員会検討結果報告書について ■ 文化・スポーツクラブはさま職員の施設管理費に係る私的流用について 《委員のみ》 ■ 意見交換会の振り返りにについて 〔出席者〕 田口委員長ほか委員7名 教育委員会 小野寺教育長ほか6名	—
3. 4 (火) 13:53～13:57	所管事務調査②	《市民生活部》 ■ 子ども医療費助成事業の概要について 〔出席者〕 田口委員長ほか委員7名 市民生活部 佐々木部長ほか5名	—
3.12(水) 16:40～16:50	検 討	《委員のみ》 ■ 副委員長の選出について 〔出席者〕 田口委員長ほか委員6名	—
3.17(月) 14:00～14:50	所管事務調査③ (現地調査)	《教育部》 ■ 東和小学校について 〔出席者〕 田口委員長ほか委員5名 教育部 阿部次長ほか5名	6

教育民生常任委員会 活動概要

【意見交換会】

1. 日 時：令和7年2月12日（水） 午前9時30分～午前11時35分
2. 場 所：長沼ボート場クラブハウス
3. 事 件：登米地方保育所協議会との意見交換会
4. 参 加 者：委員長 田口 政信、副委員長 熊谷 康信
委 員 鈴木 実、首藤 忠則、佐藤 千賀子、岩淵 正宏、
伊藤 栄、八木 しみ子

登米地方保育所協議会
認定こども園さくら幼稚園 片岡 大助氏ほか10名

(議会事務局) 主査 小野寺 崇
5. 概 要：(別紙のとおり)
6. 所 見：(別紙のとおり)

■登米地方保育所協議会との意見交換会

(概 要)

保育施設の現場においては、コロナ禍や物価高騰などにより様々な対応・対策が求められている。それに加え、急激に進行する少子化を見据えた上での今後の施設運営の在り方や方向性について検討が必要となっている。

今回、このような保育環境の現状を把握するため、登米地方保育所協議会との意見交換会を実施したものの。

1. テーマ

- ①諸物価高騰による給食費及び燃油等への支援について
- ②急激に進む少子化の保育施設に及ぼす影響とその対策について

2. 主な意見（登米地方保育所協議会出席者より）

<テーマ①>

- ・昨年度までは、登米市から原油価格・物価高騰対策の助成金があったが、今年度、無くなってしまったため、園の運営にも影響が出ている。
- ・物価高騰により大変なのは保育施設だけでなく各家庭も同じであるため、給食費の値上げをしないよう工夫しながら運営しているが、大変厳しい状況となっている。
- ・国においては、小中学校の給食費無償化の議論はされているが、保育所等の児童の給食費の無償化については、議論が進んでいないため、議論が進むことを強く望んでいる。

<テーマ②>

- ・出生数がここ 10 年間で急激に減少している。これまで保育施設には待機児童問題があり、希望しても入れないという時期があった。しかし、今では逆に定員数に満たないという保育施設が増えている状況にある。
- ・今後、さらに子どもたちの数が減少した場合、民間施設の運営はどうなるのだろうかという大きな不安を感じている。



(所 見)

<テーマ①>

各園においては、物価高騰に伴い、食材費などへの影響が大きい状況を再認識した。給食費の値上げではなく、経費節減などにより対応している園が多かった。

また、保育所等の給食費無償化については、国においても、具体的な動きがないため、今後議論していく必要があると思われる。

物価高騰対策も含め、国への要望や市の独自支援についての検討が必要だと考える。

<テーマ②>

本市としては、認定こども園、保育所、小規模保育事業所を増設してきたことにより、待機児童は0人となったが、その一方で、本市の出生数は減少傾向にあり、合計特殊出生率についても横ばいの傾向にある。

このような状況の中、施設においては、定員割れも出てきており、各施設の経営者や園長からは、急激な少子化を見据え、今後の運営に対する不安が以前にも増して感じられた。

今後、各施設においては、統合や合併も視野に入れ、競争力を付けるためにもそれぞれの施設の特色を活かした運営や、そのための環境整備に努めることが必要と考える。

この課題については、関係者等の意見や要望をしっかりと聞くとともに、現場の声を県や国に対して届けることも必要だと考える。

教育民生常任委員会 活動概要

【所管事務調査③（現地調査）】

1. 日 時：令和7年3月17日（月） 午後2時～午後2時50分

2. 場 所：東和小学校

3. 事 件：東和小学校について

4. 参 加 者：委員長 田口 政信
委 員 鈴木 実、首藤 忠則、佐藤 千賀子、
岩淵 正宏、八木 しみ子

（教育委員会）教育部次長兼教育総務課長 阿部 信広、
学校教育課長 猪股 勝徳、学校再編推進室長 安部 保男、
学校教育課長補佐兼学校施設係長 沼倉 貴宏、
学校教育課学校施設係 主査 芳賀 裕考、
教育総務課長補佐（総合調整） 千葉 敬子

（議会事務局）主査 小野寺 崇

5. 概 要：（別紙のとおり）

6. 所 見：（別紙のとおり）

■東和小学校について（現地調査）

（概 要）

東和小学校について、開校に向けた工事等が概ね終了したことから現地調査を実施したもの。

東和地域小学校施設整備事業に係る東和中学校改修工事の概要

1 事業目的

地域の小学校の再編に伴い、児童の学習環境を整備するため、統合校となる校舎を改修するもの

2 事業概要

東和中学校の校舎を活用し、統合小学校を併設するための建築及び機械設備の改修工事

（1）工事内容 校舎、屋内運動場、プール、外構等

主な改修工事の内容

- ①校舎（普通教室・特別支援教室の整備、昇降口、職員室、校長室、トイレ、FF暖房機の整備）
- ②屋内運動場（トイレ、バスケットゴール、ステージ側に小学校校章・小学校校歌の設置）
- ③プール（プール本体の全面改修、8コースのうち2コースを小学校低学年用として改修、プールろ過装置・シャワー設備の改修）
- ④外構（小学生用の遊具を校庭南側に設置、安全フェンスの設置、正面駐車場をスクールバス8台が停車できる区画に改修、校舎南側に85台分の駐車場を新設）

（2）事業実施期間 令和4年度～令和6年度

（3）事業費の内訳（見込）

（単位：千円）

業 務	事業費	備 考
委託料	31,493	継続費
工事請負費	725,437	継続費
備品購入費	601	
計	757,531	

3 事業費

757, 531 千円（実績見込）

【財源内訳】 学校施設環境改善交付金 180, 892 千円、
過疎債 575, 800 千円、一般財源 839 千円

4 開校

- （１）開校式 令和 7 年 4 月 4 日（金）
- （２）児童数 令和 7 年度児童予定数 162 人（令和 7 年 3 月 17 日現在見込数）



（所 見）

東和小学校の校舎は、東和中学校の校舎を改修して使用するものである。

この改修工事は、校舎、屋内運動場、プール、外構等、多方面に及ぶものであり、地元産の津山杉を壁や下駄箱等の校舎内の各所に使用することで木質化が図られており、木のぬくもりが十分に感じられるものであった。

今後、本市においては、他地域の小学校等の統合・新築・改修等、多くの公共事業が予定されており、その際の参考になるのではないかと期待される。

教育民生常任委員会 活動概要

○今期委員会のふりかえり

当委員会では、今期の活動テーマとして「地域医療」「環境、ゴミ・リサイクル対策」「新図書館整備事業」「部活動の地域移行」の4つを掲げ、活動を行った。

「地域医療」では、病床のダウンサイジングや機能分担などの改革に加え、新型コロナウイルス感染症に伴う国からの交付金などにより黒字に転じたが、同交付金終了後の病院事業及び老人保健施設事業の運営は依然として厳しい状況である。今後、さらに人口減少及び少子高齢化の進展が見込まれることから、地域医療体制や救急医療体制の充実と強化に取り組む必要がある。

「環境、ゴミ・リサイクル対策」では、ゴミの減量化及びプラスチックゴミ等のリサイクル率の向上を図る取り組みが重要であるが、市民への周知徹底などにより、今後さらなる取り組みの推進が必要と考える。

「新図書館構想」については、同構想が令和5年10月に改定され、また、令和7年1月には登米市新図書館機能検討委員会検討結果報告書が作成された。

今後、構想内容の具現化に当たっては、検討委員会の検討結果をしっかりと踏まえた中で取り組むべきものとする。

「部活動の地域移行」では、令和5年度に実施した検討委員会や令和6年度の移行準備委員会等の話し合いを踏まえ、令和7年度からは地域指導者や活動内容等が明確になった種目から事業を開始することとしているが、子どもたちが安全・安心に活動できる体制づくりの構築が必要と考える。

2年間の委員会活動をふりかえり、次の点を新しい体制の下で調査・検討されるよう期待したい。

《引継事項》

①プラスチックごみ等の回収、リサイクルについて

本市のプラスチックごみについては、令和6年4月から、これまでの「プラスチック製容器包装類」に加え、「プラスチック製品類」を資源ごみとして回収しており、回収量も増加している。現在、家庭から排出されるごみの多くには、プラスチック等のリサイクル可能なごみが相当量含まれており、ごみの分別を徹底することで、ごみの量は半減すると思われる。

しかしながら、いまだにプラスチックごみの回収を知らない市民も多いと思われることから、今後、ごみの再資源化に向けては、市民に対して、より丁寧な周知を行うとともに、環境意識の向上や行動変容につなげられる仕組みを構築することで、可燃ごみ等の減量化並びに再資源化ごみの回収量の増加を図り、持続可能な社会の実現と生活環境の向上に向けて取り組まれない。

②小中学校の学校再編について

小中学校の再編について、小学校の再編は計画通りに進んでいるが、中学校の再編については、令和7年度以降に具体化していくこととなる。

登米市立小中学校等再編構想については、令和4年4月に改定しているが、少子化の進展や小学校統合による地域の状況の変化等もあると考えられることから、保護者や地域の皆様との意見交換を通して、地域ごとの現状とより良い未来を見据えた学校再編が具体化するよう調査、検討されたい。

③地域医療のあり方

病院事業の経営状況は、患者数が減少している中、病床数のダウンサイジングや病床機能の転換、市民病院を中心とした機能分担、診療報酬上の施設基準加算の取得に努めたことによる診療単価の上昇等により、収支状況に改善が見られつつある。一方、一般会計からの繰入金については、令和7年度当初予算で1億1,438万3,000円減額となったものの、基準外繰入金が常態化しているため、基準内及び基準外繰入金の検証が必要である。

企業会計である以上、自立した企業体である意識をもって中長期計画の再構築を図りながら経営改善に取り組む必要があり、あわせて市民病院の老朽化への対応も喫緊の課題であるとする。

市民が安心して医療を受けられる病院を目指して、次の点について持続可能な地域医療体制の構築と収支改善の方向を調査、検証されたい。

- (1) 市民病院の新築に向けた検討
- (2) 一般会計からの繰入金の検証
- (3) 老人保健施設事業の検証及び今後の方向性